

植物プランクトンの調査方法

- ・表層は湖面から水深 0.5m、下層は湖底から 0.5m 上をポンプで採水した。(採水量約 250mL)
- ・採水した試料を 100mL 共栓シリンダーにとり、中性緩衝ホルマリン液を 5%濃度となるように添加し、2 日以上静置沈殿した。
- ・上澄み部と沈殿部をサンプルビンに 5mL 程度取り、残りを遠心分離 (3,000rpm、15min) した後、沈殿分をサンプルビンに取って全量を 7～9mL とした。
- ・「上水試験方法 2011 年版 VI. 生物編 (日本水道協会)¹⁾」を参考に、標準計数板を用いて検鏡、係数し、試料 1mL あたりの細胞数を算出した。(単位：細胞数/mL)
- ・同定は属レベルまで行い、「ダム湖の植物プランクトンチェックリスト²⁾」に従い分類した。
- ・*Phormidium* 属については分類体系が変更されているため、現在の分類体系にあてはめると複数の属に分類される可能性がある。

【引用文献】

- 1) 日本水道協会 (2013) : 上水試験方法 2011 年版 VI. 生物編. 日本水道協会. 東京.
- 2) 辻彰洋・新山優子 (2025) : ダム湖の植物プランクトンチェックリスト. 国立科学博物館. 2025. 2. 27 公開 <https://www.kahaku.go.jp/research/db/botany/microalgae/dam/> (2025 年 2 月 28 日時点)

【参考文献】

- 日本水道協会 (2008) : 日本の水道生物 -写真と解説- 改訂版. 日本水道協会. 東京.
- 滋賀の理科教材研究委員会 (2005) : やさしい日本の淡水プランクトン図解ハンドブック. 一瀬論・若林徹哉 (監修). 合同出版. 滋賀.